

特徴・強みと課題

目的 他の市町村と比べた、特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法 JAGES2022年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国75市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果 75市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

1. 強み指標

表3 75市町村と比較した特徴・強みの指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
プレフレイルあり割合	28.4	1	28.8	0.4	2,023	33.8	28.4	40.1
老人クラブ参加者(月1回以上)割合	17.8	2	16.1	-1.7	1,940	5.4	0.6	25.1
収入のある仕事への参加者(月1回以上)割合	45.8	3	46.7	0.9	1,811	32.7	24.4	46.8
認知症リスク得点(認知症リスク得点による算出)	3.4	4	3.4	0.0	2,012	3.8	3.3	4.3
口腔機能低下者割合(基本チェックリスト)	17.7	4	17.5	-0.2	1,990	20.6	16.5	27.2
交流する友人(10人以上)がいる者の割合	35.6	4	38.5	2.9	1,984	26.5	17.7	36.9
肥満(BMI25以上)者割合	19.5	5	21.8	2.3	1,928	23.2	15.9	36.3
友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合	78.1	5	79.7	1.6	1,969	67.2	57.1	80.3
社会的役割低下者割合	22.5	6	19.2	-3.3	1,988	31.5	18.1	38.4
情緒的(心配事や愚痴)サポート受領者割合	96.6	6	96.1	-0.5	1,983	95.2	92.1	98.6
独居者割合	9.8	6	8.5	-1.3	1,981	16.0	7.7	34.6
ソーシャル・キャピタル得点(連帯感_240点満点)	170.2	8	167.3	-2.9	2,016	159.3	135.9	180.2
孤食者割合	5.5	9	19.6	14.1	1,979	7.3	3.9	12.4

- 健康関連指標での強み指標は「プレフレイルあり割合」「認知症リスク得点」「口腔機能低下者割合」「肥満者割合」「社会的役割低下者割合」でした。
- 社会参加・交流関連指標での強み指標は「老人クラブ参加」「収入のある仕事への参加」「交流する友人がいる者」「友人知人と会う頻度が高い者」「ソーシャル・キャピタル得点(連帯感)」「孤食者」の割合でした。
- 2019年度調査と比較し、「孤食者割合」は14.1%ポイント改善していました。

2. 課題指標

表4 75市町村と比較した課題指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合	45.3	68	55.4	10.1	972	74.6	22.1	94.3
IADL(自立度)低下者(1項目以上)割合	12.4	65	10.8	-1.6	1,994	9.9	6.4	15.6
物忘れが多い者の割合	42.1	56	46.7	4.6	1,975	40.0	33.6	51.4

- 健康関連指標で順位が下位10位に留まる指標は「IADL低下者割合」でした。
- 2019年度調査で64市町村中60位であり、課題指標であった「物忘れが多い者の割合」は4.6%ポイント改善していました。
- 建造環境では「商店・施設・販売が徒歩圏内にある者の割合」が課題指標となっていました。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

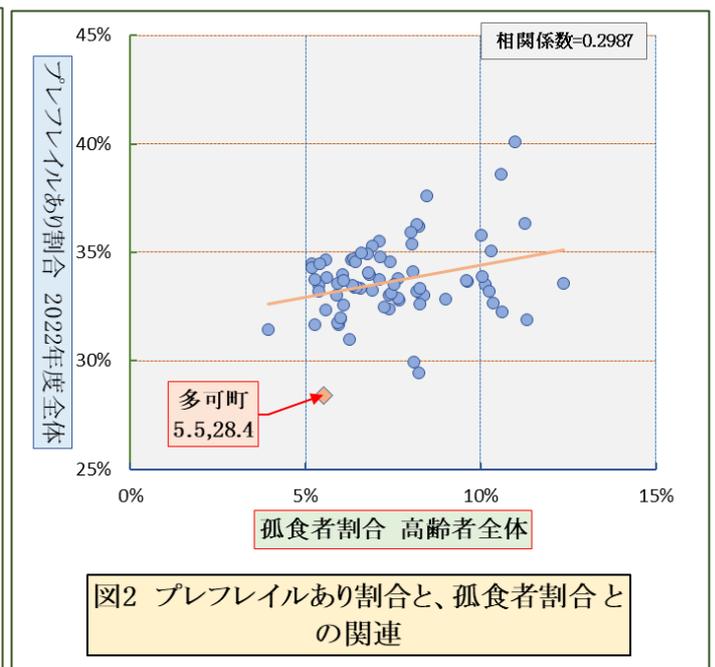
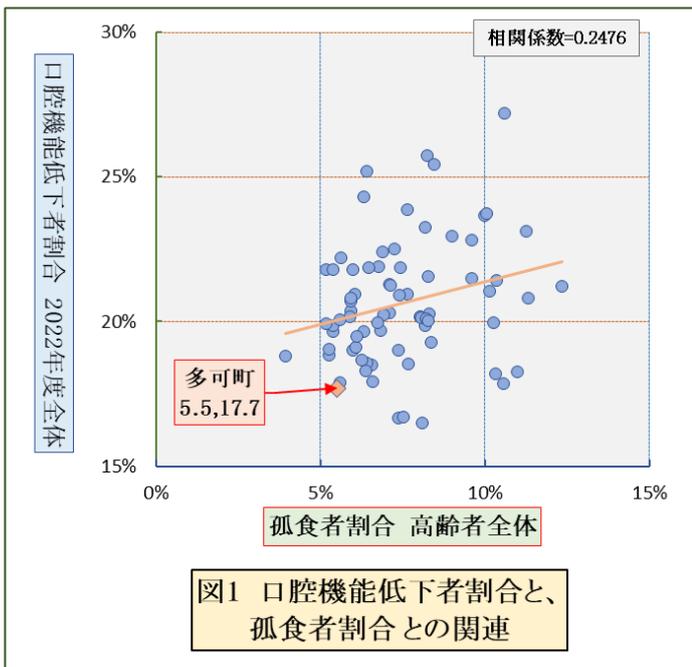
方法

JAGES2022年度調査に参加した75市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

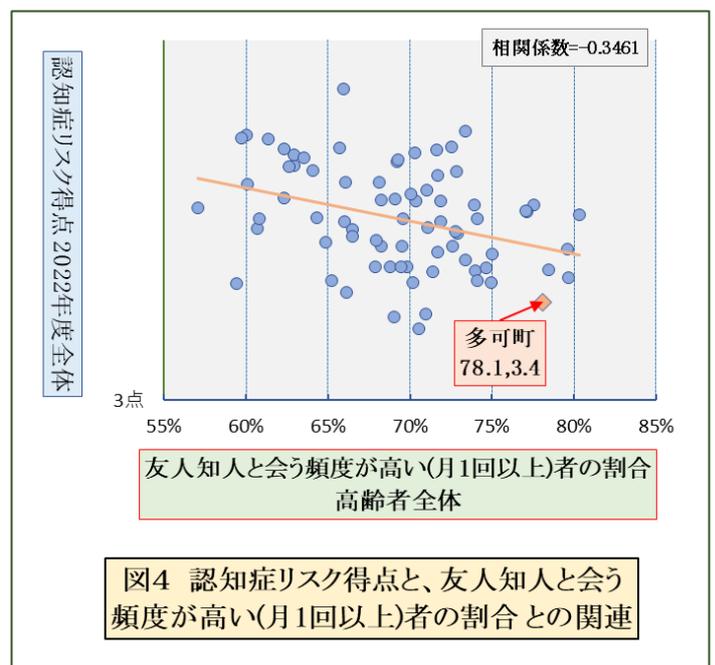
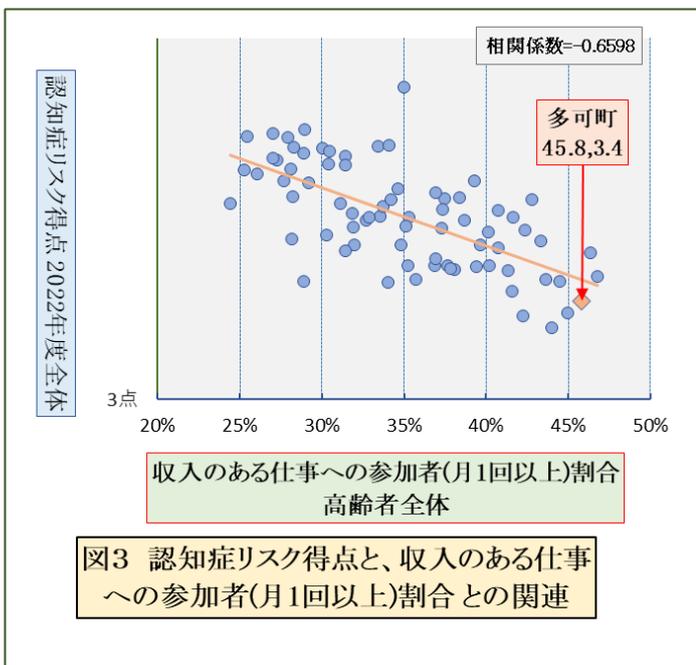
結果

特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

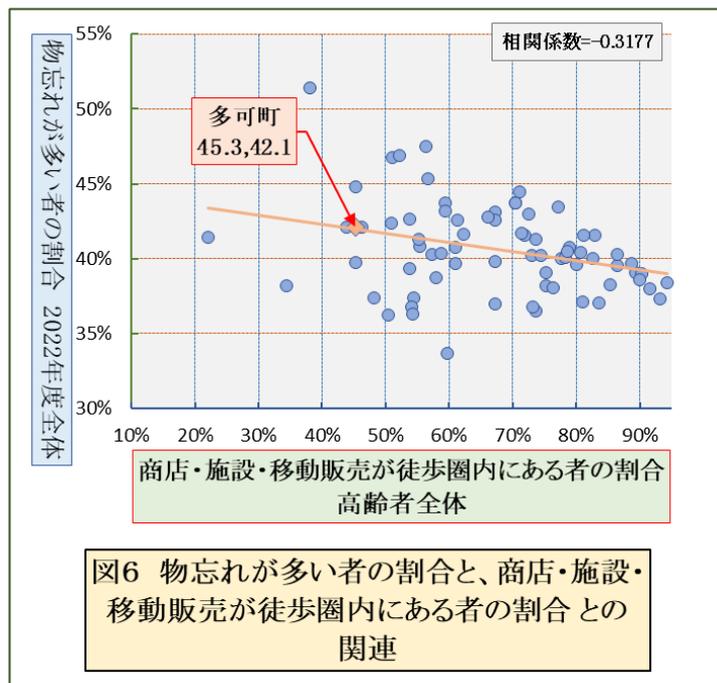
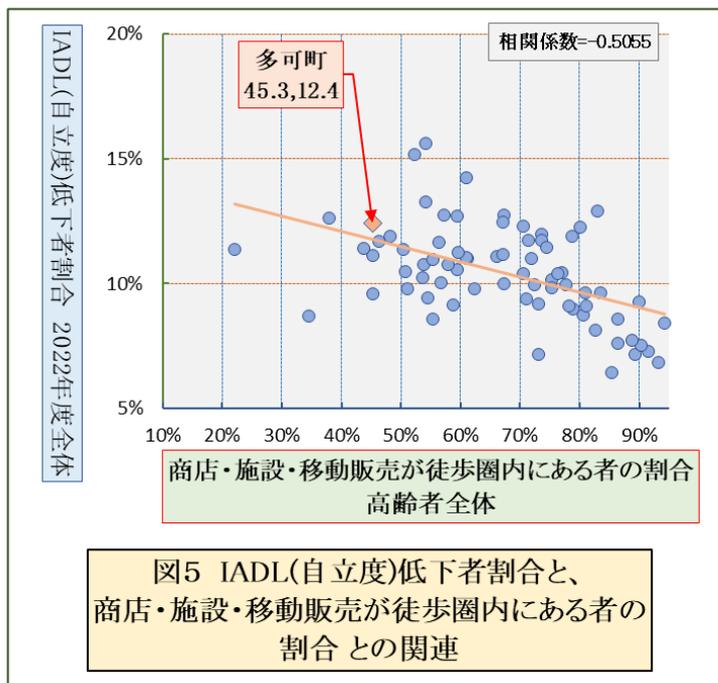
1. 孤食者が多い地域ほど、口腔機能低下、プレフレイルが多い



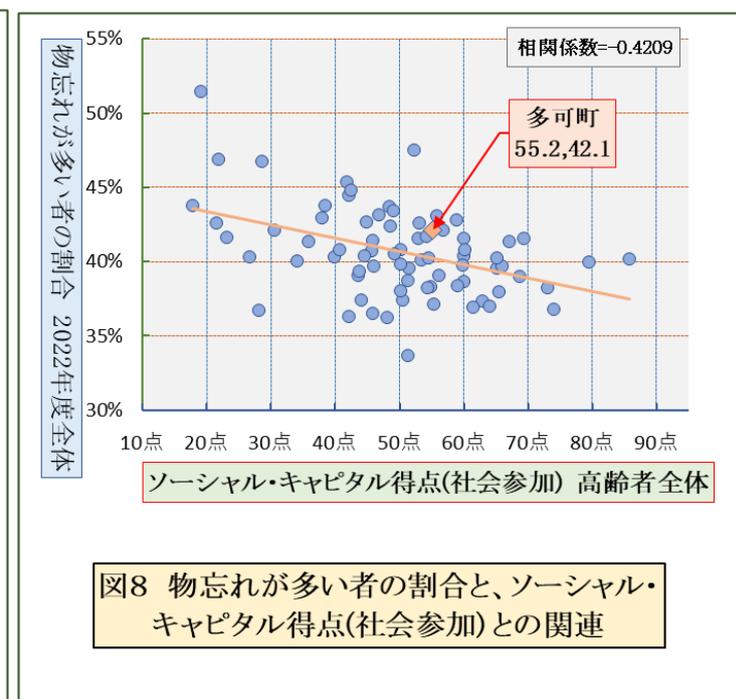
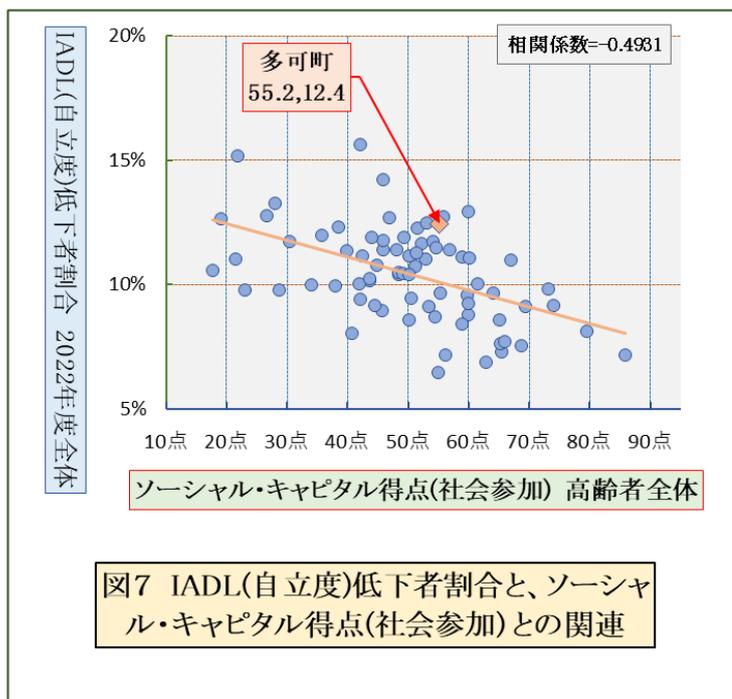
2. 収入のある仕事への参加が多い、友人知人と会う頻度が高い地域ほど、認知症リスクが低い



3. 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある地域は、IADL低下・物忘れが少ない



4. ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が高い地域は、IADL低下・物忘れが少ない



- ・ 孤食者が多い地域ほど、口腔機能低下、プレフレイルが多いことがわかりました。
- ・ 収入のある仕事への参加が多い、友人知人と会う頻度が高い地域ほど、認知症リスク得点（得点が高いほど、認知症リスクが高い）が低いことがわかりました。
- ・ 多可町の孤食者が少ない、収入のある仕事への参加者や友人知人と会う頻度が多いことが口腔機能低下、プレフレイルが少なく、認知症リスクが低いことに関連しているのかもしれませんが。
- ・ 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある地域やソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が高い地域は、IADL低下・物忘れが少ないことがわかりました。
- ・ 徒歩圏内の商店・施設・移動販売といった建造環境や社会参加へのアプローチにより、多可町の課題指標であるIADL低下、物忘れの解決につながる可能性があります。

市町村内比較から探る重点対象地域

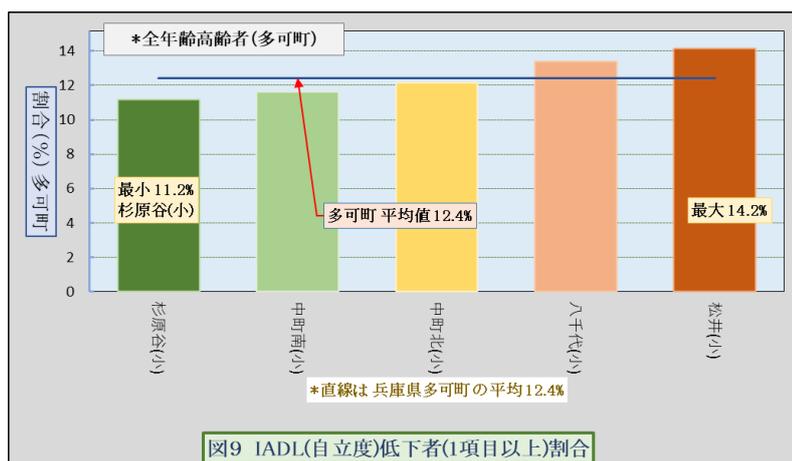
目的 課題だとわかった指標について、小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法 自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

結果 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

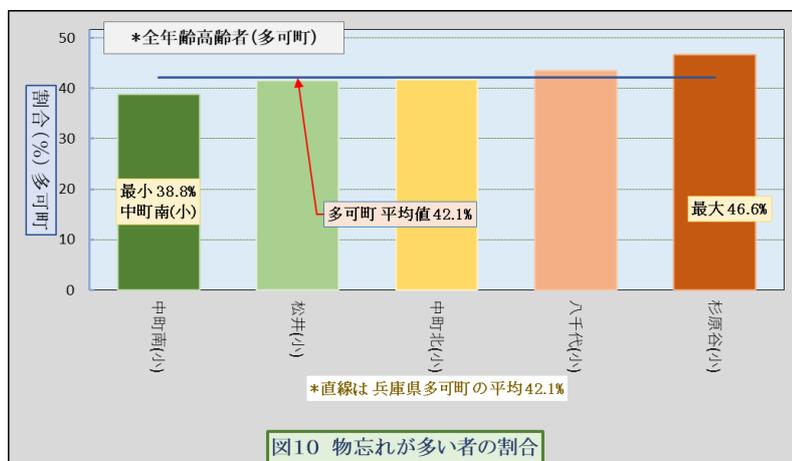
1. IADL（自立度）低下者の割合の小地域比較

- IADL(自立度)低下者割合には、11.2～14.2%の小地域間格差がありました。
- IADL(自立度)低下者(1項目以上)割合が下位2位の重点対象地域は、松井小学校区(14.2%)、八千代小学校区(13.4%)でした。
- 松井小学校区は2019年度調査時の9.8%と比較し、4.4%ポイント悪化していました。
- 手がかりは、1位の杉原谷小学校区(11.2%)にあると考えられます。
- 杉原谷小学校区は小地域で唯一2019年度調査時から維持していました(11.4%→11.2%)。



2. 物忘れが多い割合の小地域比較

- 物忘れが多い者の割合には、38.8～46.6%の小地域間格差がありました。
- 物忘れが多い者の割合が下位2位の重点対象地域は、杉原谷小学校区(46.6%)、八千代小学校区(43.5%)でした。
- 2019年度調査と比較し、杉原谷小学校区は他の4小学校区が3.9～7.3%ポイント改善している中、変化があまりありませんでした(47.3%→46.6%)。
- 手がかりは、1位の中町南小学校区(38.8%)にあると考えられます。
- 多可町内での小地域間格差はIADL（自立度）低下者割合で約1.3倍、物忘れが多い者の割合で約1.2倍と小さく、課題指標の該当者割合が低い地域での取組を参考にしつつ、全町的に取り組むという考え方もよいかもしれません。
- その中でも資源を集中投入する地域を選定するとしたら、図9・10にあげた2指標（IADL低下、物忘れ）に認知機能低下割合を加えた3指標すべてで下位2位以内に入り、認知症リスク得点（認知症リスク得点による算出）、認知症リスク者（7点以上）割合では最下位の八千代小学校区と考えられます。



市町村内比較から探る改善の手がかり

目的

多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

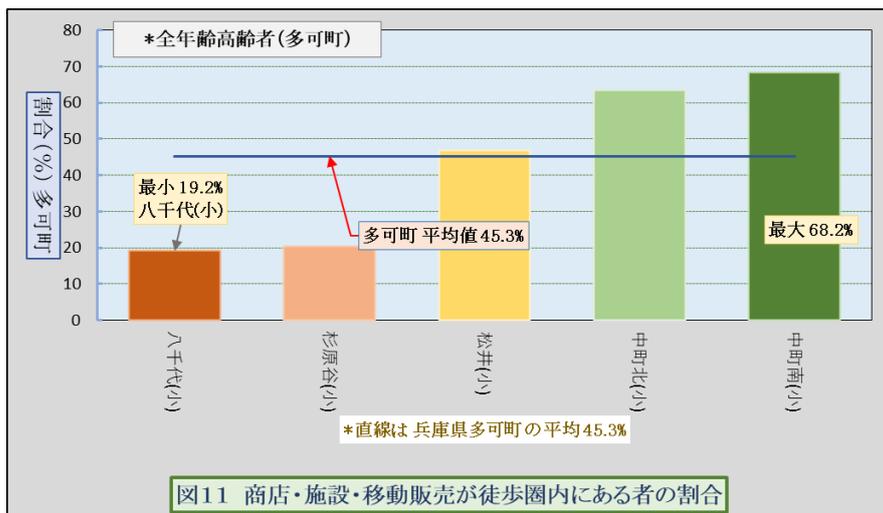
方法

市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果

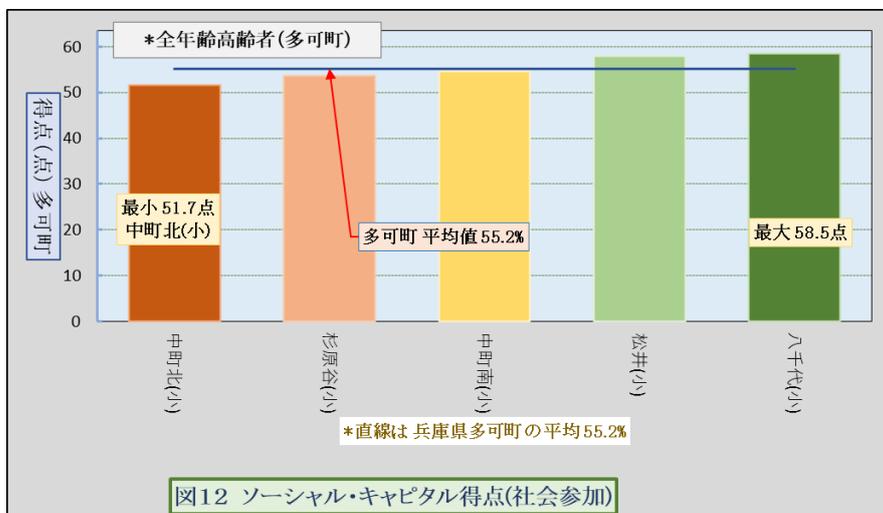
市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？



- 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合には、19.2～68.2%の小地域間格差がありました。
- 商店・施設・移動販売が徒歩圏内にある者の割合が下位2位の重点対象地域は、八千代小学校区(19.2%)、杉原谷小学校区(20.4%)でした。
- 手がかりは、1位の中町南小学校区(68.2%)などにあると考えられます。

2. ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？



- ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)には、51.7～58.5点の小地域間格差がありました。
- ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)が下位2位の重点対象地域は、中町北小学校区(51.7点)、杉原谷小学校区(53.6点)などでした。
- 手がかりは、1位の八千代小学校区(58.5点)などにあると考えられます。
- 2019年度調査と比較すると、松井小学校区では増加(56.8点→58.0点)、八千代小学校区では維持(58.6点→58.5点)となっていました。
- 他の3小学校区は8.3～8.5点悪化していました。

- 多可町内での小地域間格差は約1.1倍と小さく、八千代小学校区、松井小学校区での取組を参考にしつつ、全町的に社会参加者を増やす取組が必要かもしれません。

2. グループ活動への参加意向（一般）は56.1～63.1%
 グループ活動への参加意向（企画・運営）は35.8～39.7%

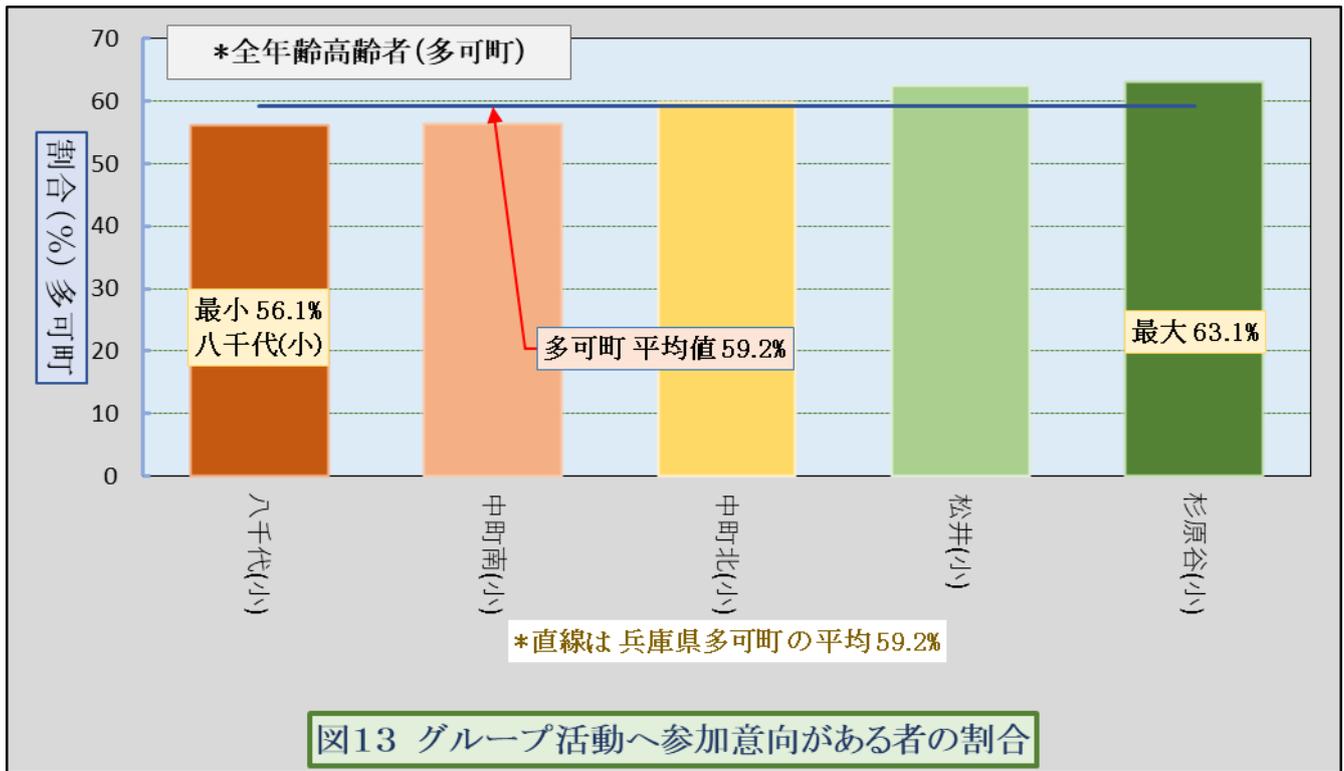


図13 グループ活動へ参加意向がある者の割合

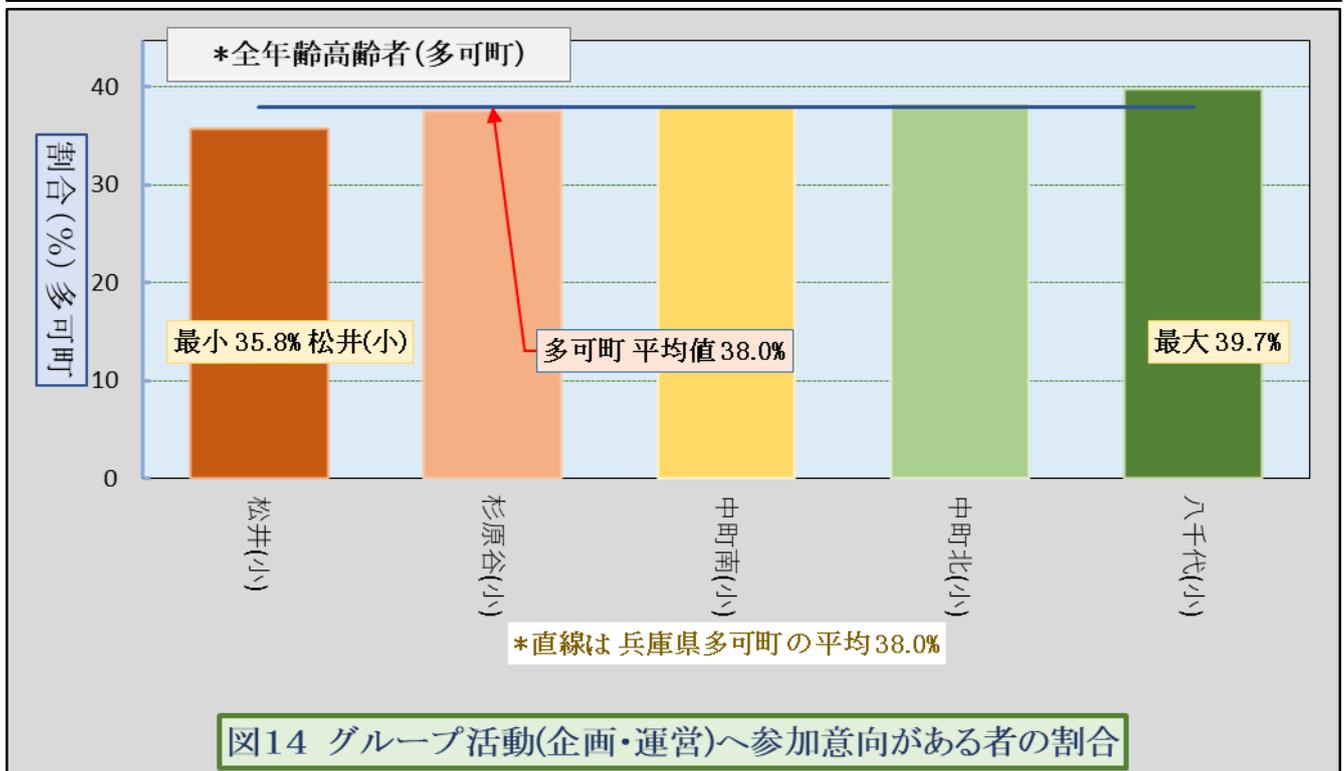


図14 グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合

- 社会参加が多可町の課題指標（IADL低下、物忘れ）と関連があることがわかり、多可町では全町的に社会参加を促進していくことが必要であることがわかりました。
- 最も少ない地域でも約5割がグループ活動に参加してよい、約3割が企画・運営役として関わってもよいと回答していました。
- 課題指標（IADL低下、物忘れ）重点対象地域である八千代地域は徒歩圏内に商店・施設・移動販売は少ないものの、ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）は最も高く、これらの方々に協力頂き、認知症対策の新たな取組や移動販売などの支援を組み合わせることで課題解決につながる可能性があります。
- 全町的にこれらの方に協力頂き、新たな地域組織を立ち上げや社会参加の再開支援を実施することで、社会参加を促進できるかもしれません。

多可町の地域診断 概要 2022

JAGES「健康とくらしの調査2022」に参加した75市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは「プレフレイルあり割合」「認知症リスク得点」「口腔機能低下者割合」「肥満者割合」「社会的役割低下割合」「孤食者割合」が低く、「老人クラブ参加」「収入のある仕事への参加」「交流する友人がいる者」「友人知人と会う頻度が高い者」「ソーシャル・キャピタル得点（連帯感）」が多いことでした。
- 一方、課題は、「IADL低下者割合」「物忘れが多い者割合」が高く、「商店・施設・販売が徒歩圏内にある者の割合」が低いことでした。
- 2019年調査と比較し、「孤食者割合」は14.1%ポイント、「物忘れが多い者の割合」は4.6%ポイント改善していました。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 孤食者が多い地域ほど、口腔機能低下、プレフレイルが多いことや収入のある仕事への参加が多い、友人知人と会う頻度が高い地域ほど、認知症リスク得点（得点が高いほど、認知症リスクが高い）が低いことがわかりました。多可町の孤食者が少ない、収入のある仕事への参加や友人知人と会う頻度が多いことが口腔機能低下、プレフレイルが少なく、認知症リスクが低いことに関連しているのかもしれませんが。
- 今後も働きたい高齢者の方の就労継続支援や感染対策に配慮しつつ、友人・知人との交流や共食を推奨するなどの取組が多可町の強みを維持する上で有用な方法の1つだと考えられます。
- 「IADL低下者」「物忘れ」が多いことが多可町の課題の一つです。これらの課題指標と関連する徒歩圏内の商店・施設・移動販売といった建造環境や社会参加へのアプローチにより、多可町の課題解決につながる可能性があります。

3 市町村内比較から探る重点対象地域

- 多可町内での小地域間格差はIADL（自立度）低下者割合で約1.3倍、物忘れが多い者の割合で約1.2倍と小さく、課題指標の該当者割合が低い地域での取組を参考にしつつ、全町的に取り組むという考え方でもよいかもしれません。
- 敢えて、重点対象地域をあげるとすると、認知症関連の5指標の全てで下位2位に入る八千代小学校区と考えられます。

4 市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- 社会参加が多可町の課題指標（IADL低下、物忘れ）と関連があることがわかり、多可町では5小学校区中3小学校区で2019年度調査と比較し、ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）が減っていました。
- 課題指標（IADL低下、物忘れ）重点対象地域である八千代地域は徒歩圏内に商店・施設・移動販売は少ないものの、ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）は最も高く、これらの方々に協力頂き、認知症対策の新たな取組や移動販売などの支援を組み合わせることで課題解決につながる可能性があります。
- 全町的にグループ活動への参加意向をもつ方に協力頂き、新たな地域組織の立ち上げや社会参加の再開支援を実施することで、社会参加を促進できるかもしれません。